

小さな心掛けが 大切な命を守る

昨年(2012年)の交通事故による死者数は4411人で、12年連続して減少傾向にあります。
しかし、依然として4000人を超える尊い命が交通事故によって奪われています。平均すると1日に12人、2時間に1人です。

皆さんは日常生活の中でどんな時に「交通事故」について考えますか？
悲惨な交通事故のニュースを見た時。交通ルールを無視した危険な運転を見た時。
そんな時、もし自分や家族が交通事故にあったらと想像して、「怖いな」と感じる
ことがあると思います。

皆さんは、通勤や買い物など、毎日の生活の中でその危険を回避するための習慣や
行動を実際にとっているでしょうか。
いつも通る道だから。近所までの外出だから。
そんな小さな油断や気の緩みが重大な交通事故につながってしまう恐れがあります。

シートベルトの着用や早めのライト点灯、
道路への飛び出しをしない、夜間は明るい服装を心掛ける。
そういった小さな心掛けで交通事故を避けることができます。

子どもやお年寄りを家から送り出す時、車に乗り込んでハンドルを握る時、
少し交通安全について考えてみてください。

交通ルールを守ることは、命を守ることです。

猪苗代町交通対策協議会



みんなの笑顔が一等賞！ 福島を、猪苗代を元気にした、ランナーたちの充実感あふれる笑顔。そのどれもがとびっきり輝いていました



1_ 沿道の声援を受けながらスタートするランナーたち 2_ 勇壮な演奏でランナーたちを鼓舞した、いなわしろ天鏡太鼓 3_ ハーフ女子Bで2年連続の6位入賞を果たした緑小教諭の金子瞳さん(左)。「教え子たちの応援が力になった」と話した 4_ 町食生活改善推進員会と町商工会女性部の振る舞った豚汁が大好評。温かい豚汁がランナーたちの冷え切った体を温めた 5_ ゴールしたランナーにタオルを配る体育協会加盟団体の皆さん。冷たい雨に打たれながらも「お疲れさまでした」と笑顔で声を掛ける 6_ 佐藤選手(左)と川内選手(右)はレース後のトークショーで走る秘訣やレースの感想、今後の抱負などを語った

まちの応援マガジン いなわしろ

広報猪苗代

Nov.2013
11
No.637

今月の表紙



【撮影日】 10月30日
【撮影場所】 四ツ谷地区

猪苗代保育所の児童が中央商店街などを練り歩き、火災予防を呼び掛けました。終点の保育所は間近。仲間たちが疲れを見せる中、後藤真宙くん(前列右)と小林歩睦くん(同左)は「わっしょい！わっしょい！」と元気な掛け声を響かせていました。

Contents — 【目次】

- 02 PICK UP
- 03 町交通対策協議会からのお知らせ
～小さな心掛けが大切な命を守る～
- 04 平成25年度上半期財政状況
- 06 まちのわだい
- 10 笑顔でこんにちは／農業体験ツアーほか
- 12 いなわしろタウンページ
- 16 暮らしの情報広場
- 20 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー

東日本大震災からの復興を応援する「猪苗代湖ハーフマラソン2013」は10月27日、カメリーナをスタート、ゴールで開催され、全国から集まったランナーたちが秋の猪苗代路を疾走しました。
今年は、昨年を約千人上回る2990人が参加。年齢・男女別のハーフマラソン10部門と男女10歳、中学男子5歳、同女子3歳、親子2歳の計15部門を繰り広げました。あいにくの雨模様となったものの、ランナーたちは沿道の声援を受けながら、猪苗代湖や磐梯山を望むコースを全力で駆け抜けました。
ハーフマラソンには、日本最速市民ランナーの川内優輝選手(埼玉県庁)と北京五輪男子マラソン代表の佐藤敦之選手(中国電力、会津高卒)がゲストランナーとして参加し、熱いレースを繰り広げま

した。また、元プロビーチバレー選手の浅尾美和さんが親子部門の参加者らと一緒に走り、大会に華を添えました。
レース終了後には、川内、佐藤両選手によるトークショーを開催。川内選手は「沿道から『来てくれてありがとう』など温かい声援を受けた。福島の皆さんのおもてなしの心が伝わったレースだった」、佐藤選手は「川内君のようなトップランナーが福島に来てくれてうれしい。子どもたちも着々と育っている。2020年に開かれる東京五輪には、ぜひ福島から選手が出てほしい」などと話しました。
過去最多のランナーが参加した今年の大会。悪天候の中、沿道では大勢の町民が声援を送り、大会を盛り上げました。ボランティアや吹奏楽、和太鼓の演奏などでも2000人を超える町民が参加し、おもてなしの心で大会を支えました。

Pick Up

今月のイベント

ランナーたちが
復興を応援

猪苗代湖ハーフマラソン



大会を盛り上げたゲストランナーたち